

薬の伝言板 ～貧血～

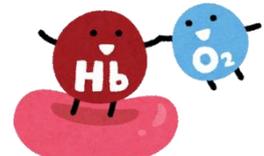


No.238 2017年9月
丸子中央病院 薬局

【貧血とは】

貧血とは血液中の赤血球（酸素を運ぶ役割）やヘモグロビン（赤血球中で酸素と結合する役割）の量が減ってしまうことで体内が酸欠状態になってしまうことです。

貧血になると、全身の倦怠感、息切れ、頭痛、失神、ふらつきなどが起こります。



Hb:ヘモグロビン
O₂:酸素

【貧血の種類】

貧血は原因によって分類され、代表的なものとして、**鉄欠乏性貧血**、**悪性貧血(ビタミンB₁₂欠乏性貧血)**、**腎性貧血**などがあります。



○鉄欠乏性貧血

貧血の中で最も多く、7～9割を占め、若年～中年女性に多くみられます。

血液中の鉄分が不足して起こる貧血で、鉄が不足することでヘモグロビンが作られなくなることで起こります。

《不足になる原因》

- 摂取不足 : 不規則な食生活、無理なダイエット、バランスの悪い食事
- 需要の増加 : 妊娠、出産時
- 排泄増大 : 病気による出血など

特徴的な症状として、爪がスプーン状爪（さじ状爪）、舌が平たくつるつるになる、などがあります。

○ビタミンB₁₂欠乏性貧血

ビタミンB₁₂が不足することで、赤血球の量が減り貧血になります。

ビタミンB₁₂は赤血球の材料になり、胃で吸収されます。胃を切除した場合など、吸収される量が減ってしまい貧血になります。

特徴的な症状として、白髪になる、四肢がしびれる、などがあります。

○腎性貧血

赤血球の産生を促進する糖たんぱく質のエリスロポエチンは主に腎臓で産生されるため、腎不全になるとエリスロポエチンが作られなくなり、その結果赤血球が作られなくなるため、貧血となります。

疲れやすい、動悸・息切れ、めまいなどの症状があらわれますが、徐々に進行するので、体がその症状に慣れてしまっていて気がつかない場合があります、注意が必要です。

【治療】

○鉄欠乏性貧血

鉄欠乏性貧血の治療は、まず原因をはっきりさせ、病気による出血の場合などは、その原因を治療します。

例) ケエン酸第一鉄錠 ・ フェジン静注など

基本は内服薬で治療します。この薬は鉄が消化管から吸収されやすくなるように工夫されている薬です。しかし、鉄が体内に蓄積して、正常化するまで時間がかかるため、ヘモグロビン値が正常化してからも、3~4ヶ月飲み続けなければならない薬です。

また、この薬を服用すると便が黒くなることがありますが、薬の成分による色であり、心配はありません。

注射剤は、内服薬では吐き気などの消化器症状が強い場合や、鉄の吸収に障害がある場合などに使用します。



○ビタミンB₁₂欠乏性貧血

ビタミンB₁₂欠乏性貧血の治療は、鉄欠乏性貧血と同じように、不足しているビタミンB₁₂の補充が治療です。

例) シアノコバラミン注など

注意しなければならない点として、ビタミンB₁₂を吸収するには胃が不可欠であるため、いくらビタミンB₁₂の錠剤を経口摂取しても、胃を切除した場合などは吸収されません。そのため、注射による治療を行いません。



○腎性貧血

腎性貧血の治療は、エリスロポエチンの補給です。

例) エポジン注・ネスプ注・ミルセラ注など

これらの注射薬の違いは投与間隔です。

エポジン注	: 週に2~3回
ネスプ注	: 週に1回
ミルセラ注	: 4週間に1回



エリスロポエチンは鉄分が不足しているとスムーズに働かず、効果が発揮できません。先に述べた薬の効果を高めるためにも、鉄剤などで鉄分の補給も行います。

貧血の予防は、まず食事をきちんととり、3食バランス良く食べることです。貧血の症状が無くなったからといって、薬を飲むのをやめないで下さい。一緒に服用すると、他の薬の吸収を悪くしてしまう物もあるので、他の薬を服用する場合は、医師又は薬剤師にご相談ください。

